

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：発達の多様性 ILAS Seminar :Diversity in human development			担当者所属 職名・氏名	教育学研究科 准教授 明地 洋典		
群	少人数群	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2024・ 前期集中	受講定員 (1回生定員)	11(11)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	集中 未定	教室	未定			使用言語	日本語
キーワード	人間 / 発達 / 障害 / 生物 / 心理						
[授業の概要・目的]							
<p>ヒトの発達の多様性やそれに伴う諸問題について扱う。具体的には、以下のことを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．生物一般およびヒトの発達の原理に関する講義を行う。また、発達障害に関する理論や研究の動向についても紹介する。障害の捉え方について議論を行う。 2．発達の多様性に関する実践的な問題の1つとして特別支援教育の現場の見学および実践者との議論を行う。 3．講義と現場の見学を終えた時点での履修者それぞれの問題意識を授業参加者全体に共有し、全体で議論を行う。 <p>これらの活動を通して、発達の多様性に関する諸問題について理解を深めること、履修者それぞれの問題意識を深めることを目的とする。</p>							
[到達目標]							
ヒトの発達の多様性について科学的に理解すること、また、発達支援などの実践の場での取り組みについて理解すること。							
[授業計画と内容]							
<p>1．授業の導入、講義（1日目、5月中もしくは6月上旬の土日のうち1日） 京都大学吉田南キャンパスの教室において行う。発達および発達障害の原理や理論に関する講義を行い、障害の捉え方について議論を行う。また、以下の2に際しての注意事項などについても説明を行う。事前に日程調整の上、5月中もしくは6月上旬の土日のうち1日を行うことを予定しているが、日程が合わない場合は2日にわけて行う。</p> <p>2．発達支援・実践の見学、実践者との議論（2日目、6月中旬中の1日） 東京都内の回、京都府内の回、何れか1回に参加すること。こちらも事前に日程調整を行った上で日程を決定する。東京都内の回については、午前9時頃には現地に着いている必要があるため、前日中に移動をしている必要がある可能性がある。</p> <p>3．履修生による問題提起および議論（3日目、6月下旬の土日のうち1日） 京都大学吉田南キャンパス内の教室で行う。各履修者が平素より抱いている問題意識、もしくは、講義の受講や見学・議論を行う中で芽生えた疑問などを授業参加者全体に共有し、議論を行う。日程は事前に調整の上、決定する。</p>							
ILASセミナー：発達の多様性(2)へ続く							

ILASセミナー：発達の多様性(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点と議論への参加によって評価する。

[教科書]

未定

[授業外学修（予習・復習）等]

日頃から自身の学術的な興味や問いを意識しながら情報に接するようにするとよいと思います。

[その他（オフィスアワー等）]

- 1．見学場所までの旅費を自ら支出可能であること。
東京の回は、京都大学から往復約3万円、京都の回は、京都大学から往復約500～2000円程度の予定
- 2．学生教育研究災害保険に加入していること。
- 3．履修登録期間までに行う日程調整の連絡に必ず返信すること。